

長野美術専門学校
令和5年度事業報告書

学校法人クリエイティブA

I 法人の概要

1 建学の精神

人間に生きる歓喜（よろこび）と希望をもたせ続けてきたのは音楽と美術の力である

2 理念体系

(1) 教育理念

創造性の育みを以って豊かな社会形成に資する

(2) 信条

クリエイティブこそ社会形成の要である

(3) 教育目的

創造性の育み

(4) 育成人間像

目的に対し自由な精神で立ち向かう主体性を持った人間

(5) 使命

学生への最良の通過点の提供

3 沿革

1946.04 村田美術研究所を長野市に開設

1953 村田絵画研究所を併設

1964 長野市北石堂町にアトリエを新設 ※ここまでが、個人立絵画教室

1970.10 長野県知事より私立村田美術学校認可※公認の各種学校

学校長に村田武次就任

設置学科 造形科 絵画コース（2年制）/デザインコース（2年制）

1976.04 専修学校文化教養専門課程認可※専修学校専門課程として認可を受ける

1978.04 長野市岡田町に校舎新築移転 長野市岡田町8-1-9

1978.09 長野美術専門学校に名称変更

1981.09 造形科にレタリング・写植コース（1年制）を設置

1988.03 造形科レタリング・写植コース（1年制）を廃止

1991.12 創立20周年記念事業

1995.10 学校法人村田学園認可※個人立から法人立へ、公の学校としての位置付けを強くする

初代法人理事長に村田武次就任

1997.09 長野市中御所1丁目10-10に新校舎新築移転

1998.04 学科構成等変更

造形科へ建築デザインコース（2年制）を設置

研究科（1年制）設置

- 1999.03 別館「蔵」の増設
建築デザインコースは国家資格に係る学科であり、その設置条件を満たすための増設
- 2000.04 学校長に村田道子就任
- 2001.04 創立 30 周年記念事業
- 2002.03 学科構成等変更
造形科建築デザインコース（2年制）を廃止、
造形科デザインコース（2年制）、絵画コース（2年制）を統合し、造形科（2年制）とする。
- 2004.04 学校長に村田陽就任
- 2004.04 学科構成等変更
研究科（1年制）を2年制に変更
造形科をビジュアルデザインコース（2年制）、ビジュアルデザイン特修コース（2年制）に分ける。京都造形芸術大学通信教育部の併修制度を開始（特修コース）
※特修コースは主に進学を考える学生のためのコースとして設置された。
- 2005.10 法人理事長に村田陽就任
- 2005.10 学校長に小林勝彦就任
- 2007.04 学科構成等変更
造形科 ビジュアルデザインコース（2年制）及びビジュアルデザイン特修コース（2年制）2年次に映像授業開設
- 2007.04 学科構成等変更
アート・コミュニケーション科（1年制）開設
- 2007.07 法人理事長に小林勝彦就任
- 2009.04 学科構成等変更
造形科 ビジュアルデザインコース（2年制）及びビジュアルデザイン特修コース（2年制）に Web デザイン専攻・映像デザイン専攻を新設
アート・コミュニケーション科に2年制コースを設置したため、アート・コミュニケーション科1年制コース・2年制コースとする
- 2010.04 学科構成等変更
造形科 ビジュアルデザインコース（2年制）とビジュアルデザイン特修コース（2年制）を統合し、ビジュアルデザイン科（2年制）とする
- 2013.04 全学科単位制へ移行
美専修学ラインの設定
デザインライン／ドローイングライン／アートライン／映像ライン
- 2014.03 ビジュアルデザイン科2年制 職業実践専門課程認定
実践的な職業教育を高い質で確保している学校として「職業実践専門課程」法制化初年度に認定される
- 2015.04 学科構成等変更
ビジュアルデザイン科3年制を開設

- ビジュアルデザイン科はビジュアルデザイン科2年制に名称変更
- 2016.04 法人名称変更
「学校法人村田学園」を「学校法人 クリエイティブ A」に変更
C I（キャンパスアイデンティティ）の確立へ
学科名称変更
アート・コミュニケーション科1年制をビジュアルアート科1年制に変更
アート・コミュニケーション科2年制をビジュアルアート科2年制に変更
- 2016.04 学科構成等変更
美専修学ラインの充実を図る
アニメキャラクターライン（新設）／デザインライン／イラストレーションライン（ライン名変更）／ファインアートライン（ライン名変更）／映像ライン
- 2016.12 新キャンパス建設着工
- 2017.08 新キャンパス竣工
- 2019.04 研究科をプロジェクトデザイン工科へ名称変更
- 2019.07 サテライトキャンパス設置 長野県長野市中御所 森ビル新館1F
- 2020.03 ビジュアルデザイン科3年制 職業実践専門課程認定
- 2020.03 ビジュアルアート科1年制廃止
- 2020.04 美専修学ラインに「WEBメディアライン」を新設
- 2021.03 プロジェクトデザイン工科廃止
- 2021.04 com. デザイン総合学科設置
- 2021.04 履修証明プログラム「実践的デザイン基礎コース」設置
- 2022.04 履修証明プログラム「実践的デザイン応用コース」設置
- 2023.02 履修証明プログラム「実践的デザイン基礎コース」キャリア形成促進プログラム認定
- 2023.02 履修証明プログラム「実践的デザイン基礎コース」教育訓練給付講座 指定
- 2023.04 ビジュアルアート科3年制学科 設置
- 2023.05 地域連携研究センター「ながの Creative HUB」発足
- 2023.05 長野市との包括連携協定を締結
- 2023.12 履修証明プログラム「実践的デザイン応用コース」キャリア形成促進プログラム認定

4 設置する学校

学校名	長野美術専門学校			
設置者	学校法人クリエイティブA			
郵便番号	380-0935	所在地	長野県長野市中御所1丁目10番10号	
電話番号	026-227-3229	FAX番号	026-227-3235	

5 設置する課程・学科・修業年限

課程	学科 (単位制)	修業 年限	卒業に必要な単 位数及び時間数		称号
			124	3400	
文化教養専門課程	com. デザイン総合学科	4年	124	3400	高度 専門士
文化教養専門課程 (職業実践専門課程)	ビジュアルデザイン科3年制	3年	93	2550	専門士
文化教養専門課程 (職業実践専門課程)	ビジュアルデザイン科2年制	2年	62	1700	専門士
文化教養専門課程	ビジュアルアート科3年制	3年	93	2550	専門士
文化教養専門課程	ビジュアルアート科2年制	2年	62	1700	専門士

6 学科等の入学定員、収容定員、入学者数、在籍者数 (単位：人)

課程	学科 (単位制)	定員	入学状況			4月 開始時
			入学 定員	入学 志願 者数	入学 者数	
文化教養専門課程	com. デザイン総合学科	20	5	2	2	2
文化教養専門課程 (職業実践専門課程)	ビジュアルデザイン科3年制	30	10	3	3	17
文化教養専門課程 (職業実践専門課程)	ビジュアルデザイン科2年制	40	20	15	15	31
文化教養専門課程	ビジュアルアート科3年制	15	5	3	3	4

文化教養専門課程	ビジュアルアート科2年制	30	15	17	17	37
合 計		135	55	40	40	91

7 役員・評議員・教職員の概要

(1) 役員概要

定数・人数・任期	区分	職名	氏名	
理事 定数6人 令和5年4月1日～ 令和9年3月31日	第1号	理事長	小林 勝彦	長野美術専門学校校長
	第2号	理 事	松本 直樹	長野美術専門学校副校長
	第3号	理 事	松田 光平	市議会議員
	第3号	理 事	伊東 工	映像制作会社代表
	第3号	理 事	増澤 珠美	イベント運営団体代表
	第3号	理 事	岡田智津子	デザイン制作会社代表
監事 定数2人 令和5年4月1日～ 令和9年3月31日		監 事	瀬下 良幸	デザイン業自営
		監 事	西澤 和博	デザイン制作会社役員
評議員定数13人 令和5年4月1日～ 令和9年3月31日	13人			
顧問	1人			

(2) 教職員の概要

職 名	本務・兼務の別	勤務体制	合計（人）
校 長	本 務	常 勤	1
副校長	本 務	常 勤	1
教 員	本 務	常 勤	6
教 員	兼 務	非常勤	24
連携企業派遣講師	兼 務	非常勤	4
職 員	本 務	常 勤	2

(3) 理事会・評議員会の開催状況

① 令和5年度理事会の開催状況は以下のとおりです

令和5年4月1日 臨時理事会

令和5年5月14日 定例理事会

令和6年3月25日 定例理事会

② 令和5年度評議員会の開催状況は以下のとおりです。

令和5年4月1日 臨時評議員会

令和5年5月14日 定例評議員会

令和6年3月25日 定例評議員会

II 事業の概要

1 当該年度の事業の概要

本校は社会に実現すべき「質と実」を求め、事業を遂行している。そのために、創造性の教育をどのように向上し継続していくかが中長期の計画である。当年度もその渦中にあり、入口・中身・出口の各方面で方策を施し、手ごたえを確かめてきた。そうした方策の一つに修学の多様化があるが、本校独自の教育課程「美専修学ライン」に当年度は「ビジュアルアート科3年制学科」を加えた。このことにより、昨年度の大学院への入学資格を持つ高度専門士称号授与学科となった「com.デザイン総合学科」や、テクニカルライン(学びの専門性)に増設した「マンガライン」と共に修学をより多様に発展させた。

こうした言わば本科以外では、修学対象を社会人に向けた「履修証明プログラム」も発展的に継続した。このプログラムでは全2コースを設置しているが、当年度の申請も合わせ両コースが文部科学省からキャリア形成促進プログラムに認定された。このことにより、令和6年度はやはり両コースが共に厚労省施策の教育訓練給付制度の対象になる見込みである。

付帯事業の小学生を対象とした「ながのこども美術学校」は、こどもの成長に美術が不可欠な活動とした“美育”理念に基づき継続しているものだが、当年度も内容に工夫を凝らすなど発展的に進んだ。受講のこども達には熱心さが増し集中度の高まりを見せており、人数も安定的に確保できた。

広報活動では、実践的な取り組みなど本校の特色ある取り組みを余すところなく周知するよう、プレスリリースやWEB媒体への情報発信に努めた(報道等資料参照)、また学校案内やWEBサイトなどオウンドメディアの活用にも努めた。

学生募集においては微増ではあるが過去最多数となった。これは、前述の修学の多様化振興と、広報活動による一定の結果が出たものではないかと考えている。

当年度は地域連携研究センター(ながのクリエイティブ HUB)を発足して、かねてからの課題、“社会との新しい接点”を充実するとともに、連携相談業務を定常的に進めるよう試行した。またこの発足式で、長野市との包括連携協定を交わした。連携カリキュラムの代表的なものに「水内大社『大絵馬』奉納プロジェクト」が挙げられるが、反響が多く認められた。このセンターに寄せられ

た相談は年度を通じて 80 件ほどになった。

サテライトキャンパスは、広報の拠点として社会との新しい接点を求め模索してきたが、当年は長野市長を迎えての協定調印式や大絵馬の描き始めの場として、またこの大絵馬の公開制作の場としても数ヶ月にわたって活用、内設の美専ギャラリーは当年度も卒業生支援などに活用した。

2 主な事業の目的・計画・計画の進捗状況

(1) 教育課程

①各学科の修業年限、卒業に必要な単位数及び時間数

※ I－5 設置する課程・学科・修業年限 参照

②学科方針

課程	学科	学科方針
文化教養専門課程	com. デザイン総合学科	クリエイティブの本来性を探求し、多様な領域で活躍できる能力の獲得 これからの社会を幅広いデザインワークでリードする力をつける
文化教養専門課程 (職業実践専門課程)	ビジュアルデザイン科 3年制学科	視覚情報のデザインによって、物事を新たに考案する能力の獲得 デザイン全般に関わる基礎力を確実なものにし、自身で切り拓く力をつける
文化教養専門課程 (職業実践専門課程)	ビジュアルデザイン科 2年制学科	視覚情報のデザインによって、物事を新たに考案する能力の獲得 デザイン全般に関わる基礎力を養い、社会の要請に正しく応える力をつける
文化教養専門課程	ビジュアルアート科 3 年制学科	幅広いアート表現によって、作品を造形する能力の獲得 展示企画の実行や市場への流通をとおり、作品を社会に接続する力をつける
文化教養専門課程	ビジュアルアート科 2 年制学科	幅広いアート表現によって、作品を造形する能力の獲得 制作や作品をとおり表現の可能性を広げ、社会へつなげる

③教育課程の特色

本校の教育課程の特色として、クリエイティブ分野の専門性を将来につながる学びの“ライン”として設定している。これまでの「デザイン」「映像」「WEBメディア」「イラストレーション」「ファインアート」「アニメキャラクター」に加え、令和4年度には新たに「マンガ」を設置し、教育課程の更なる拡充し、さらに本年度はビジュアルアート科3年制学科を設置し高度化を前進させた。

尚、ビジュアルデザイン科には「デザイン」「映像」「イラストレーション」「WEBメディア」ラインが、ビジュアルアート科には「アニメキャラクター」「ファインアート」「マンガ」ラインの科目が、com.デザイン総合学科には、主に「デザイン」「映像」「イラストレーション」「WEBメディア」ラインが配当されているが、教養科目としてアート部門カリキュラムの履修ができるように柔軟性を高めた。

又、各“ライン”には、基礎を修得する「ベーシック」、オリジナリティを獲得する「パーソナル」、そして実践的な「プロフェッショナル」の3つのキャリアステージがそれぞれ設定されており、各ステージに応じて科目が構成されている。

修学期においては、年間の内4月～6月を「基礎履修期／さまざまな専門分野基礎的な科目を履修することができる」、7月～10月をゼミ期／それぞれの専門性に特化したライン別のゼミを展開、11月～3月を「総合制作期／年間の学びのまとめの期間、専門ラインごとの集大成となる制作に取り組み、年度末には総合制作展（美専展）で一般公開する」とし、総合制作を目指した学びの流れとしている。

また引き続き、新たな授業形態や教務運営の見直し等が進み、「zoom」等を使用した遠隔配信授業や複数教室をまたぐ分散型授業、「Google クラウド」の活用による出欠管理や課題の出題提出管理、アンケートや質問に対しリアルタイムにビジュアル化できるプレゼンプラットフォームのMentimeter 導入など、新しい教育課程運営を取り入れている。

(2) 連携学習

当年度の協定を交して行った企業等との連携学習は下表のとおり。

科目名	学習内容・テーマ	連携先企業・団体 ※敬称略	形態	実施期間
キャリアデザイン A・B	会社見学・先輩へのインタビュー	株式会社アドイングロ 大日本法令印刷株式会社 株式会社エイブルデザイン	企業内研修	2023年 11月
インターンシップ A・B	現場・実務の学び	クリエイティブファクト株式会社 株式会社スタジオアリス ホクト株式会社 株式会社デジタルワークスエント ーテイメント 美容室りんごの木 日経印刷株式会社	企業内研修	2023年 7月～8月 ※各社毎日 数設定

ムービーメイキング	科目担当授業	有限会社アドフォート・トリム	講師派遣	2023年 4月～6月 9月～11月
6次デザイン	科目担当授業 道の駅しなののテントデザイン デザインプロジェクト	長野県デザイン振興協会	講師派遣	2023年 4月～10月
		株式会社トドロキデザイン	実習	
		信濃町ふるさと振興公社	実習	
ブランドマネジメント	科目担当授業	株式会社りんごの木	講師派遣	2023年 4月～7月
映像表現	科目担当授業	株式会社ズズザウルス	講師派遣	2023年 5月
ライン別ゼミ	人権啓発ポスターデザイン	長野県県民文化部人権・男女共同参画課	講師派遣	2023年 7月～10月
ライン別ゼミ	人権学習（制作テーマ）	長野県県民文化部人権・男女共同参画課	講師派遣	2023年 7月
ライン別ゼミ	環境啓発プロジェクト	ながの環境エネルギーセンター	実習	2023年 7月～10月
ライン別ゼミ	山形村 郷土愛育成事業 デザインワークショップ &リーフレット等制作	山形村	実習	2023年 7月～10月
ライン別ゼミ	ノベルティグッズデザイン	長野県信用保証協会	実習	2023年 7月～10月
ライン別ゼミ	交通安全啓発ポスターデザイン	長野自動車センター	実習	2023年 7月～10月
ライン別ゼミ	ながのこどもわくわくカフェ 入り口のアートプロジェクト	ながのこどもの城いきいきプロジェクト	実習	2023年 7月～10月
レイアウトデザイン	記念誌デザイン	夢のデザイン塾	実習	2023年
ファインアートA・B	水内大社大絵馬制作	水内大社大絵馬プロジェクト 長野郷土史研究会	実習	2023年 4月～10月

(3) 各種検定

当年度設定した検定の実施結果は下表のとおり。

検定種	com. デザイン総合 学科			ビジュアルデザイ ン科3年制			ビジュアルデザイ ン科2年制			ビジュアルアート 科3年制			ビジュアルアート 科2年制		
	受 験	合 格 認 定	合 格 率	受 験	合 格 認 定	合 格 率	受 験	合 格 認 定	合 格 率	受 験	合 格 認 定	合 格 率	受 験	合 格 認 定	合 格 率
	レタリング検定3級	2	1	50%	3	1	33%	15	9	60%	1	1	100%	4	3
色彩士検定3級	2	2	100%	3	2	67%	15	9	60%	3	3	100%	17	12	70%
Illustrator クリエイ ター能力認定試験	/	/	/	3	2	67	16	13	81%	/	/	/	14	8	57%
Photoshop クリエイタ ー能力認定試験	/	/	/	3	1	33%	16	7	44%	/	/	/	14	9	64%
日本語検定3級	2	1	50%	3	3	100%	15	10	67%	3	3	100%	20	15	75%
美術検定4級	1	1	100%	6	5	83.3%	11	9	81.8%	/	/	/	/	/	/
ビジネス能力検定ジョ ブパス3級	/	/	/	5	3	60%	16	13	81%	/	/	/	17	12	71%
フォトマスター検定3 級	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
ブランドマネージャー 資格検定3級	/	/	/	2	2	100%	8	6	75%	/	/	/	/	/	/

3 入学志願者数・受験者数・合格者数等の入学試験に関する状況

月	日	曜日	試験種別
7	29	土	AO選考 学習体験1
8	26	土	AO選考 学習体験1
10	21	土	指定校推薦
10	28	土	第1回自己推薦選考
11	25	土	第2回自己推薦選考
12	23	土	第3回自己推薦選考 ※出願者無し
1	20	土	第1回一般選考
2	22	土	第2回一般選考
3	9	土	第3回一般選考
			第4回一般選考個別 ※出願者無し

選考結果

(単位：人)

学科	志願者数	受験者数	合格者数	令和6年度 入学者数
com. デザイン総合学科	6	6	6	6
ビジュアルデザイン科3年制	5	5	5	5
ビジュアルデザイン科2年制	13	13	13	13
ビジュアルアート科3年制	5	5	5	5
ビジュアルアート科2年制	21	21	21	21
合 計	50	50	50	50

4 卒業生数・修了者数・称号授与数等の状況

(単位：人)

課 程	学科名	4月 開始時	休学	退学	卒業	転学科 等	3月末 在籍者)
文化教養専門課程	com. デザイン総合学科	2	0	0	0	0	2
文化教養専門課程 (職業実践専門課程)	ビジュアルデザイン 科3年制	17	0	0	9	0	8
文化教養専門課程 (職業実践専門課程)	ビジュアルデザイ科 2年制	31	0	0	15	0	16
文化教養専門課程	ビジュアルアート科 3年制	4	0	0	1	+1	4
文化教養専門課程	ビジュアルアート科 2年制	37	1	1	17	-1	18
合計		91	1	1	42		48

特別な課程		受講者数 (人)	修了者数 (人)
履修証明プログラム	実践的デザイン基礎コース	2	2
	実践的デザイン応用コース	0	0

5 学生の就職・進学状況

卒業生42名のうち、就職を希望した者は29名で、その内就職した者は24名であった。希望者に対する就職率は82.7%となった。

科	卒業生数 (人)	就職希望 者数 (人)	内就職者数 (率)	進学希望 者数 (人)	内進学 数 (人)
com. デザイン総合学科	0	0	0	0	0
ビジュアルデザイン科3年制	9	5	5(100%)	0	0
ビジュアルデザイン科2年制	15	12	9(75.0%)	0	0
ビジュアルアート科3年制	1	0	0(0%)	0	0
ビジュアルアート科2年制	17	12	10(83.3%)	1	0
合 計	42	29	24(82.7%)	1	0

6 クリエイティブプロジェクト

社会に向け創造性教育の必要性そのものを伝えるべく、専門課程の教育活動の枠を超え様々なクリエイティブ企画を推進している。

① 地域連携研究センター『ながの CreativeHUB』開設

令和5年5月13日発足式

社学連携業務に特化し設置した組織。

地元の企業等からの依頼を学生のPBL(プロジェクト・ベースド・ラーニング)の学びへとつなぐHUBの役割として活動する。

② クリエイティブフラッグプロジェクト

デザイン・アートは社会に大きな役割を担うことをアピールし、クリエイターの活躍の場を広げる。デザイン・アートの力により社会を彩るプロジェクト。

様々なビジュアルで彩ったフラッグを制作し、町を彩る。

本年度の主な使用は 年度内 長野美術専門学校敷地周辺 (オープンキャンパス開催時)

③ 美専展 2024

美専展は学生の総合制作を公開する授業目的のプロジェクトであるが、社会に向けた創造性教育の必要性を伝える目的により、当該年度の教育課程において企業等との連携活動による成果物の公開を学校側により行う。学生と学校との協働展となっている。

開催日時	令和6年2月23日(金・祝)～25日(日) 10:00～17:00 ※初日開始14:00。最終日16:30まで 内覧会：2月23日(金・祝)11:45～13:00
開催場所	北野カルチュラルセンター
構成	学校：連携学習の成果報告 学生 88名：総合制作作品の展示
会期中の来館者のべ人数	651名 (23日/199名、24日/301名、25日/151名)

7 基幹委員会運営

(1) 自己点検・評価委員会

教職員・講師及び卒業生へのアンケートを実施し、その分析を踏まえ令和4年度における自己点検評価を行った。

役職名	氏名	所属・役職	開催日
委員長	小林 勝彦	校長	令和5年7月31日(月)
委員	松本 直樹	副校長	
委員	小林 理砂	総務長	

(2)教育課程編成委員会

専攻分野に関する企業、関係施設、関係団体等との連携による専門分野の動向や必要となる知識・技術・技能について、本委員会にて把握・分析し、授業科目の設置や授業方法の改善策を策定することで、本校の専門課程における実践的な職業教育の教育課程の編成に反映させることを目的としている。

開催日 第1回 令和5年12月22日

第2回 令和6年2月29日

役職名	氏名	選任区分	所 属
		委員会規則 第4条	
委員長	小 林 勝 彦	4号	長野美術専門学校 学校長
委 員	辻 圭 介	1号	長野県デザイン振興協会 事務局長
委 員	安 達 浩 平	3号	株式会社ロジェインターナショナル
委 員	宮 本 圭	3号	株式会社 シーンデザイン建築設計事務所
委 員	和 田 裕	3号	株式会社エイブルデザイン
委 員	樋 口 大 輔	3号	株式会社協栄テクノス
委 員	本 藤 佳代子	5号	長野美術専門学校 com. デザイン総合学科学科長
委 員	相 澤 徳 行	5号	長野美術専門学校 ビジュアルデザイン科2年制学科学科長
委 員	寺 島 克 己	5号	長野美術専門学校 ライン主任代表

(3)学校関係者評価委員会

本校と連携授業等で関係している企業や学識経験者、本校学生保護者、卒業生から選ばれた委員による学校関係者評価委員会を設置し、本校の自己点検・評価の結果が適切かどうか、またその結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか等の評価を行い、今後の学校運営改善のための参考としている。

開催日 令和5年8月29日

役職名	氏名	選任区分	所 属
		委員会規則 第4条	
委員長	松 井 秀 夫	1号	NPO法人夢のデザイン塾 副理事長
委 員	基 井 照 明	2号	株式会社日商印刷 専務取締役
委 員	松 本 政 憲	2号	富士フイルムビジネスイノベーションジャパン株式会社
委 員	富 澤 綾 子	4号	在校生保護者
委 員	萩 原 道 子	5号	卒業生

8 教職員研修

本校教職員研修規則に定める教員研修は、専攻分野の専門性の学びについて、学生の就職先などの進路への通用性や分野動向への対応性及び職業人として求められる人間力を教員自身が調べ、学び、企業等の人材需要に応じていくために企業等との連携により実践性を踏まえて行なう。

また、職業人育成のための教育的知識・指導力を高める目的により、本校の教育活動に適した教育理論や技術の研修を行なう。研修の取り組みにあたっては、教科運営を行なう立場から教務部署がこれらの目的を賄う成果をあげるため、教科会、主任会、職員会等に働きかけ学校全体としての活動となるよう先導するものとしている。

又、職員へも学校運営上必要になるとされる各種研修会へ参加の形で実施している。

目的	研修内容・テーマ	研修先又は講師派遣先	形態	研修日
指導力向上	高校教育をとりまく変化～高校卒業後の進路を考える～ 高等教育をとりまく急激な変化の中で、高校生への進路指導等、高校の先生方と共有すべきポイントを学び、高校卒業後の進路先である専門学校での指導に活かす。	植上 一希 氏 福岡大学人文学部教育・臨床心理学科 教授	録画動画による視聴	令和5年 12月20日
技術力向上	「東京ゲームショウ 2023 ビジネスデイ」最新のゲーム業界における動向を見極め、本校での同業界への就職希望者への指導に活かす	一般社団法人コンピュータエンターテインメント協会	研修会参加	令和5年 9月22日
技術力向上	「DX 体験～デジタル変革で新たな可能性を開く」 「少し先の未来」を体感出来る先進デジタルソリューションの体験	長野市主催 運営：エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社	研修会参加	令和5年 9月27日

9 付帯事業

本校に設置する付帯事業については以下のとおり。

ながのこども美術学校

小学生の自我の確立へ向かう発達期に合わせ、バランスのとれた人間性の育成のために、美術による教育「美育」の活動を下表により行った。又、この講座は、本校の教科科目「美術学習論実習」を選択した学生へ指導法を学ぶ授業としても設定されている。

クラス	開講時間	開講数 ／月	入校金 入校時 (1家庭)	受講料／ 月	担当講師 (敬称略)	受講者数 (年間のべ) 単位：人
小学校低学年 (1～3年生)	14:00～ 16:00	2回	5,000円	5,000円	小林 勝彦 鴨林 朱実 松本小百合	20
小学校高学年 (4～6年生)	14:00～ 16:00	2回	5,000円	5,000円	矢作 恵 青木 忠史	17

10 地域貢献

(1) 学べるキャリア出張講座（長野県専修学校各種学校連合会主催）

長野県専修学校各種学校連合会が専修学校・各種学校の職業教育についての経験やノウハウ、人材を生かし、小学生・中学生・高校生・一般社会人を対象に、キャリア教育・生涯学習の一端を担い、その向上に資することを目的として設置している。本校は当年度下表のように、協力した。

月日	講座テーマ	担当講師	出張先
令和6年2月15日（木）	プロが教える 自分だけの ロゴ&マークデザイン	相澤徳行	祥雲高等学院明豊蓮館 SNEC 長野

(2) いきいき生涯学習

長野市専修学校各種学校協会が主催する「いきいき生涯学習」に、当年度は下表のように協力した。

月日	講座テーマ	参加者数	担当講師
令和5年9月2日（土）	デッサン	6名	中山徳幸
令和5年9月2日（土）	デザイン	2名	相澤徳行
令和6年2月3日（土）	デッサン	4名	中山徳幸
令和6年2月3日（土）	デザイン	1名	相澤徳行

1 1 広報・学生募集活動

入学促進を含む広報活動全般と、企画事業推進

制作活動 学校案内、募集要項、各種 DM、広報物、広告物の制作

調査活動 新入生分析、入学対象者分析、募集状況分析、高等学校進路状況分析のための調査

渉外活動 高等学校等教育機関・企業等連携機関への訪問活動などを通じた関係強化を図る
(高等学校等年間訪問実績)

月 日	訪問目的 (進路指導室、事務室)
4 月下旬～5 月上旬	新年度挨拶、A0 入試の告知、指定校推薦入試の依頼
7 月上旬～7 月中旬	A0 入試の告知 (再度) ・エントリー状況の報告、進路状況の把握
9 月下旬	A0 入試合格者の御礼、進路状況の把握
11 月上旬～12 月中旬	指定校推薦・自己推薦入試合格者のお礼、進路状況の把握
1 月下旬～2 月中旬	新年ご挨拶、一般入試合格者のお礼、美専展の告知
3 月下旬～次年度	A0～一般入試合格者のお礼

資料送付「学校案内一式、オープンキャンパス DM (開催毎)」

対 象	時 期
高等学校・予備校	訪問活動に先立ち、都度送付 (訪問活動でフォローアップ)
資料請求者	請求のあった時点で、都度送付
企業・団体	当年度学校案内が完成次第、一斉送付。学校案内のみ

「美専展 DM」は、上記対象に加え同窓会 (卒業生) 等に拡大して送付

進学支援業者による進学説明会への参加

高等学校内やイベント会場で開催される進学説明会は、高校生に直接アプローチできる限られた機会であることから、機会を逃すことなく本校のクリエイティブの学びを紹介しながら、来校促進を図る。

オープンキャンパス「自由見学会」の企画・運営

新たなオープンキャンパス開催の在り方としての「自由見学会」を、展示内容や会場のしつらえ等をさらにブラッシュアップし、来場者へ安心感・満足感を提供する。

ホームページ 本校情報発信の根幹

ニューズレター配信 インターナル広報を内外に発信

SNS、動画配信 多様な情報発信を行い、年代別の閲覧選択肢を広げる
(Facebook、Twitter、Instagram、YouTube、LINE)

サテライトキャンパスの運営

街とつながる広報、また、ながのクリエイティブ HUB (地域連携研究センター) の拠点である、サテライトキャンパスの運営を企画。地域連携の相談受付や社学連携活動の常設展示、卒業生展や

講師展、企業展などのギャラリー企画、授業の一環としての学生制作活動、ながのこども美術学校のクラス別開催、などを行う。

1 2 今後の課題

少子化による高卒者の減少、高校までの教育の問題も含めた就学者の多様化、また修学後の学生を取り巻く社会環境の変化が続いている。こうした状況に立ち向かうための本校アイデンティティをより確かなものにしていくことが求められている。社会形成に必要なクリエイティブの学びの提供を、その多様化方針の元に高質化を図りながら実直に更新していくことが本校にふさわしい事業展開であると考えている。

修学の多様化課題に対しては、本報告の事業概要でも述べた当年度までの方策を基礎にして更に有効な方策を模索していく。リカレント教育の取り組みでは、当年度の履修証明プログラムの履修生は極僅かであり、この継続にあたっては学生募集を促進しなければならない。現在、専門実践教育給付（厚生労働省政策）制度の対象となっているのは、全2コースの内1コースのみなので、この適用を受け提供していく。また、社学連携活動や、クリエイティブプロジェクトを「地域連携研究センター『ながの CreativeHUB』」を中心として業務方法を精査し、社会と共に学ぶクリエイティブの目的に適合させていく。

財政面では、なんといっても高校生が進学による主たる収入の確保が課題。県内外の専門学校や他の教育機関との競合対策を図る必要があり、本校の独自性や有意性を明確に訴求していく。

結びに、これら今後の課題に対してもこれまでと同じように開拓的な姿勢が必要だが、それらを担う教職員の成長課題をあげたい。それは、多様な業務にあたって個々のタスク遂行のみに過ぎず事なく、むしろその成果を希求していくという本質的な課題である。築き上げるべき教育の姿を学校全体が認め、社会がそれを支える将来の実現を望んでいきたい。

III 財務の概要

1 財務概要の経年比較

経常収支差額がプラスに転じた。

年度	正味財産額（円）
令和元年度	100,979,766
令和2年度	91,781,870
令和3年度	94,205,949
令和4年度	80,959,394
令和5年度	83,856,174

2 当該年度の決算の概要と財務の見通し

令和5年度の決算は、経常収支差額が黒字となった。これは、前年度の大幅な赤字決算を踏まえ、経費削減の予算遵守によるものである。

長期的には予算規模の拡大方針を執っており、課程の多様化や修学支援、学生募集方策、また広報活動や課外の企画（クリエイティブプロジェクト）に施設及び人員の補強も含め積極的に取り組んできた。その結果が令和6年度においては入学者50名を達成し、予算を拡大することができた。さらに言えば、このことで令和7年度も収入増が見込まれるが、経費の必要面にも注視して予算を検討していきたい。

3 主な財務比率

事業活動収支計算書において、教育活動収支収入の内訳は、学生生徒納付金収入は全体の87.9%、補助金が11.0%となる。教育活動収支支出の内訳は、人件費が全体の50.7%、教育研究費が5.3%、管理経費が35.4%となる。

教育活動外収支の内訳は、収入では受取利息が100%、支出では借入利息が100%となる。

4 主な施設設備の整備状況

引き続き環境の維持管理が主であった。黒字決算を目指し、今期の支出は控えたが、令和6年度以降は校具、教具の補充や各設備の保全に努めていきたい。屋上整備が依然として課題である。